

令和4年度第2回予防接種対策委員会 会議録

1 開催日時

令和4年11月29日（火）

開会 午後2時

閉会 午後3時

2 開催場所

尾張旭市保健福祉センター 2階 201・202会議室

3 出席した委員（6名）

松尾功、佐伯公、加藤誠章、新川成哲、澁谷いづみ、大江英之

4 欠席した委員（1名）

森下雅史

5 傍聴者数

0名

6 出席した事務局職員等

（1）事務局職員

健康課長兼ワクチン接種推進室長 西尾哲弥、健康課長補佐 川原尚子、健康課健康増進係長 秋山さちこ、健康課母子保健係長 上原敦子、健康課主査 北辻潤子、同長嶋ゆかり、健康課保健師 岡島菜々子

（2）関係職員

ワクチン接種推進室長補佐 對島智美

7 議題等

（1）委員長及び副委員長の選出

（2）令和3年度及び令和4年度尾張旭市予防接種実施状況について

（3）予防接種間違い事例について

（4）令和5年度尾張旭市予防接種実施計画について

（5）BCG個別接種化の進捗状況について

（6）予防接種による健康被害の発生について

ア 健康被害の概要

イ 関係書類について

8 会議の要旨

1 開会	
事務局	健康課長兼ワクチン接種推進室長挨拶
	資料の確認
	委員の自己紹介

2 議題

(1) 委員長及び副委員長の選出

委員長：松尾委員 副委員長（職務代理者）：佐伯委員

委員長	挨拶 予防接種による健康被害に関する会議録の署名者の選出：委員長、副委員長
-----	--

(2) 令和3年度及び令和4年度尾張旭市予防接種実施状況について

資料に基づき、日本脳炎ワクチンとHPVワクチンの接種率について説明。

委員 A	サーバリックスとガーダシルの接種率ほどのくらいか。
事務局	詳しい接種率は今はわからないが、大多数がガーダシルで接種している。
委員長	HPVワクチンの接種率が低い、接種率を上げる手だてでは何かあるのか。
事務局	積極的な勧奨が再開されてから、対象者に個別通知等によりワクチンについての情報提供をしている。それにより、以前はワクチンや副反応に関する問い合わせがあったが、接種を迷っているといった相談がなくなっている。対象者や保護者は何が原因で接種をしていないのかが現状把握できていないため、今後情報収集した上で、働きかけを行っていききたい。
委員 B	接種率が100%を超えるのはどのような状況か。
事務局	例えば日本脳炎のように定期接種の接種可能な期間が長期にわたるものがあるが、市が県や国に報告する場合、国の定める「標準的な接種期間」に接種対象となる人数を対象者として抽出している。そのため、標準的な接種期間以外に定期接種として接種した者が多い場合、100%を超えてしまうことがある。
委員 B	子宮頸がんは予防接種により防げるので、接種率はぜひ上げていかないといけない。しかし、以前に言われた副反応について不安に思う保護者もまだいらっしゃる。行政からも副反応について正しい情報を周知してほしい。

(3) 予防接種間違い事例について

資料に基づき説明。 質問、意見はなし。

(4) 令和5年度尾張旭市予防接種事業実施計画（案）について

資料に基づき説明。

委員 A	小児肺炎球菌ワクチンとヒブワクチンの接種間隔が異なることが予防接種の間違いに繋がっていると思うが、これらのワクチンの接種間隔について変更はないのか。
事務局	現在のところ、国が検討しているという情報はない。

(5) BCG個別接種化の進捗状況について

資料に基づき説明。

委員 C	BCGで事故が起きた場合、適応外使用・保険外診療となるリファンピシン軟膏の使用について、陶生病院では院内で倫理委員会を通し、保護者に同意を得る等の手続きを経て使用している。この点を個別接種実施医療機関にも理解いただいた上で治療の体制を整えていくのか。
------	---

事務局	ご理解いただいた上で治療をしていただく予定である。自由診療と保険診療の混合診療になるため、全て自由診療という形で対応をお願いする予定である。
委員 C	その場合、費用は患者負担となるのか。BCGの事故の大半は子どもが動いてしまうことで起きると思う。
事務局	個別接種をお願いしている他のA類予防接種の間違い発生時と同様に、状況を把握している接種医と保護者で話し合っただけで治療や費用負担について決めていただきたい。 BCGの事故については、保護者と医療スタッフで子どもをしっかりと保持できていれば、子どもが動いて事故になってしまうことを防いでいるため、その部分については実施医療機関に今後研修会等で説明していきたい。接種医の手技による事故も起きていることから、状況によって当事者同士が判断する必要がある。
委員 C	リファンピシン軟膏は、一般的に認められている薬ではないということを実施医療機関の接種医にどう理解してもらうのか。
事務局	予防接種専門医に相談したところ、受傷後すぐにリファンピシン軟膏を塗布した方が良いことや、リファンピシン軟膏は副反応が少なく、調剤も難しくないので、処方・調剤する体制を整えることができれば、地域の医療機関にお願いしてもよいのではないかとのことだった。 市が集団接種のBCG事故対応をする中で、陶生病院に受傷した翌朝受診をしていただいたケースがあるが、保護者からはもっと早く受診したかったとのご意見をいただいた。 このような保護者のお気持ちを考えると、実施医療機関で治療体制を整えるということも検討した方がよいのではと考えている。
委員長	陶生病院を受診するのであれば、午前中に接種しないといけないのか。土曜日の接種は難しいのか。
委員 C	接種はお昼くらいまでは大丈夫だが、16時以降の接種は、薬剤部に薬をお願いしていることや当直帯に入ってしまうことから難しい。土曜日にも対応はできない。 リファンピシン軟膏の調剤方法や管理等について実施医療機関に周知してもらえるのかということも心配である。
事務局	近隣の自治体に情報収集する中で、名古屋市では研修会で予防接種専門医から接種医に薬剤の調剤方法や塗布の仕方等を説明してもらったと聞いている。
委員長	各実施医療機関で薬を用意することについてはどうか。
委員 B	各実施医療機関の調剤薬局が協力してくれるかどうかにもよるが、リファンピシンの調達方法も含め、今後医師会でよく検討していく必要がある。
委員 D	コッホ現象があった場合には保健所に報告する必要があるので、手順をマニュアルに載せて欲しい。 また、めったにないが、コッホ現象があった場合には感染源になる人がいたことになるため、結核という感染症についてしっかり周知して欲しい。

委員 C	コッホ現象で陶生病院を受診する際は、局所の経過のわかる写真を同じ光源の下で家族に撮ってもらえると評価しやすい。できれば何らかの形で写真をカルテに取り込みたい。
事務局	保護者が写真を撮り、受診の際に見せることはできると思うが、以前に陶生病院から言われたように、保護者が撮った写真をカラーコピーして受診の際に持っていくことができるかどうかは課題である。

(6) 予防接種による健康被害の発生について

※これ以降は、審議内容に個人情報が含まれ、尾張旭市情報公開条例第7条第1号に掲げる非公開情報に該当するため、非公開。

3 その他

4 閉会